



FUKUSHIMA 市民インタビュー

このコーナーでは、福島市のさまざまな分野で活躍する人や団体を紹介します。今回は、聴覚障がい者当事者であり、手話をはじめ、ろう者の人権、権利を守る活動をしている福島聴力障害者会会長の西山秀幸さんにインタビューしました。

活動内容は？



福島聴力障害者会
会長 西山 秀幸さん

昭和46年に発足した福島聴力障害者会は現在、福島市を中心に、伊達市を除く東北地区で、私たち「ろう者」の人権、権利をお互いに学び、守ることを目的としています。また「手話サークルやまびご会」「福島県手話通訳問題研究会福島班」ともに活動しています。

苦労されてきたことは？

ろう者には、かつて手話を使うことで周囲から白い目で見られたり、ろう学校では手話を使うことが禁止されたり、社会の差別を受けてきた歴史があります。当時、ろう学校では口話教育といつて、口の形から相手の唇の動きを見て何を言っているのかを読み取り、質問された場合は、きちんと声を出して答えるという教育法でした。私がろう学校に通っていた時代も、手話が使えない環境で

はありましたが、学校生活全般においてはほぼ口話教育で、口の形だけでは何を話しているのかわからず、ついていけませんでした。

また、5・6年前に入院した際に、看護師さんが寝ている私を起こすとき、鉛筆で突きながら起こすこともありました。接し方が分からずに戸惑いがあったのだと思いますが、私はひどく嫌な思いをしました。接し方を正しく理解してもらうためには、聴こえない不便さやコミュニケーション方法を理解していただくことが大事だと思います。

手話言語条例が施行されます。期待することは？

手話は言語であり、独自の言葉であると理解してほしいです。外国の方が日本を訪れても、自国の言葉で会話をすることが当たり前であり、それと同じように、手話での会話も当たり前前の社会になることを願っています。

また、市のイベントの際に手話通訳がついたり、学校や各地で行われる手話講座を通じ、手話をしている姿を見てもらうことで、市民の方に手話や手話通訳の意義を知ってもらい、広く普及してほしいと願います。皆さん手話ができるようになることが望ましいとは思いますが、あいさつや「ありがとう」など簡単な言葉を手話で表現してくれるだけでも、ろう者はとてもうれしい気持ちになります。

今後の展望は？

福島市には、花見山や温泉地など観光資源が随所にあります。観光客の中には耳の聞こえない方もいらっしやるでしょう。観光業界の方などにも、ぜひ手話を覚えていただいて、観光で訪れるろう者に福島市は人にやさしいまちなんだと知ってもらえれば、再び福島を訪れてくれることにながらと思います。また、条例施行によって、多くの人の理解につながることに、特に子どもを中心に手話に接する機会があると、より正しい接し方などを学んで理解のある人に成長できるきっかけになります。



We Love ♥ ふくしま!

第14回『ヘルプマーク』

昨年、知的障がいの疑似体験をしました。軍手を2枚重ねて、シールを貼るのですが、思うようにいかず、もどかしいのなんの！これが知的障がい者の感覚なのだそうです。急かさないで、じっくり見守ることの大切さを学びました。

一方、あるオストメイト(人工肛門・人工ぼうこうを造設している方)は、「多目的トイレから出たとき『障がいも無いのにマナーの悪い人!』といった目で見られるのがつらいです」とおっしゃっていました。内部障がいをお持ちの方は、外見上、障がい者とは分かりません。それによる誤解が、その方の心を傷つけるのです。

健常者が思う以上に、障がいを持つ方々は、できるだけ自立して生きたいという気持ちが強いようです。しかし、ちょっとした援助や気遣いが必要な時もあります。

そんな時にはまず、外見上は分からなくとも、配慮を必要

としていることを知らせるのが不可欠です。ヘルプマークは、そのために考案されたマークです。内部障がいを持つ方や難病の方、妊娠初期の方などが対象。福島市では昨年11月から、ご希望の方にお渡し始めました。対象の方は、自分で頑張り過ぎずに、勇気を持ってヘルプマークを活用されることをお勧めします。

そして、健常者はヘルプマークを持っている方を見たら、席を譲ったり、ぶつからないようにしたり、温かく見守っていただくと、お互い気持ちがいいと思います。

オリンピック・パラリンピックの理念の1つは共生社会。誰もが暮らしやすい地域社会に向けて、取り組みを強化してまいります。

4月からは、手話言語条例も施行されます。市民みんなが、手話であいさつできるようになったら、手話でコミュニケーションをとる方々も、これまで以上に明るく前向きに暮らせるようになるのではないのでしょうか。



▲ヘルプマーク

福島市長 木幡 浩